

宮崎県下におけるシイタケほた木害菌 (I)

—鹿川タイプ被害発生地域における伏込み地の被害アンケート調査—

宮崎県林業試験場 近 藤 一 稔
伊 藤 英 彦
日 高 俊 昭

はじめに

このアンケート調査は、本県の北部シイタケ生産地帯に発生した鹿川タイプの害菌被害実態を把握するため、県林業指導課が実施したものである。その調査結果につき、伏込み地の環境条件、管理法および各作業内容と被害率との関係を解析した結果、いくつかの要因に関して、この害菌被害発生の原因になるとされる傾向が見出されたので報告する。

I. 調査方法

県下8,000人のシイタケ生産者の中から、栽培に熱心な生産者500名を、西旧杵支庁および農林振興局が選定し、アンケート調査用紙を配布した。

1. 調査期間：昭和50年1月～2月
2. 調査対象伏込み地：昭和48年秋伐採原木使用の伏込み地。
3. 調査のとりまとめ方法：回答のあったアンケートは、はじめに被害率0%、10%以下、11～40%、41%以上の4群に区分して、被害率ごとにそれぞれ集計し、被害率の%と各被害率との調査事項別に、その100分率を求め比較解析をおこなったが、被害率0%と40%以下との間では、著しい差異が得られなかった。しかしながら被害率0%と41%以上との間では、害菌被害発生の有無にかなり関係するのではないと思われる因子が、はっきりしてきたので、このことについて、のべることにする。

I. 調査結果と考察

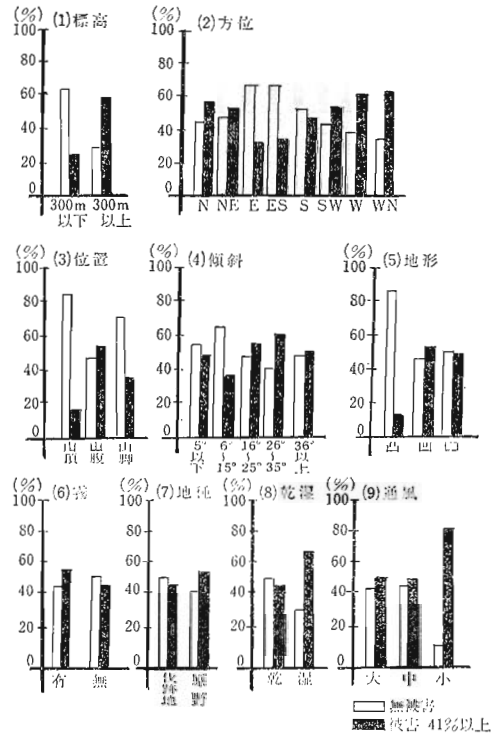
1. アンケートの回答：アンケート配布500件に対し、358件の回答が得られた。(回収率71.6%)
2. 被害率別回答件数内訳：表一に示すとおり

表一 被害率別回答件数内訳

被害率	0%	10%以下	11～40%	41%以上	合計
件数	79	110	86	83	358

解析の検討は、前述のとおり、無被害群79件と、被害率41%以上の被害群83件の2群について、環境条件、管理法および各種作業内容等についておこなった。

3. 環境条件と被害発生率：図一に示すとおりで以下項目別に列記すると、



図一 環境条件

- 1) 標高：伏込み地の標高を、300mの線で2分した場合、300m以下の低い伏込み地に害菌被害が少ない。
- 2) 方位：東、東南、南面側の伏込み地に被害が少ない。
- 3) 位置：山頂の伏込み地に被害が少ない。
- 4) 傾斜：15度以下の緩傾斜地の伏込み地に被害が少ない。

- 5) 地形：凸地形の伏込み地に被害が少ない。
- 6) 霧：霧のかからない伏込み地に被害が少ない。
- 7) 地種：伐跡地の伏込みに被害が少ない。
- 8) 乾湿：乾燥地の伏込み地に被害が少ない。
- 9) 通風：風通しのよい伏込み地に被害が少ない。

4. 各種作業と管理と被害発生率：図-2 に示すとおりで以下列記すると、

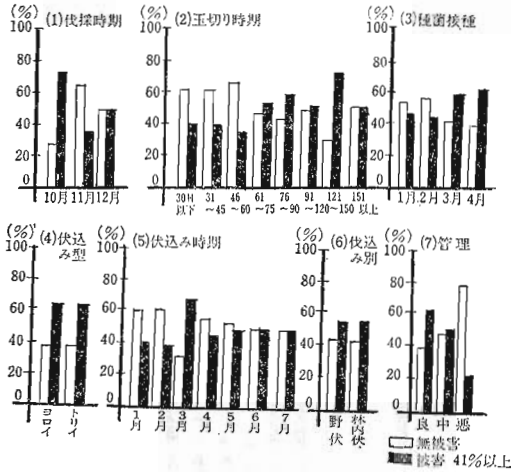


図-2 各種作業と管理

- 1) 伐採時期：11月中に伐採をおこなったほた木に被害が少ない。
- 2) 玉切り時期：伐採後25日から60日後に玉切りしたほた木に被害が少ない。
- 3) 種菌接種時期：1月から2月中に接種したほた木に被害が少ない。

4) 伏込み型：ヨロイ型，トライ伏型等の伏込み型による被害差は，少なかった。

5) 伏込み時期：1月から2月中の伏込みほた木に被害が少ない。

6) 野伏と林内伏：野伏と林内伏との間には，被害差が少なかった。

7) 管理：管理程度別では，管理不足および普通の管理をおこなった伏込み地は被害が少なく，管理を充分おこなった伏込み地に比較的被害が多いという意外な結果が示されたが，これについては，**害菌被害発生**の要因が，まず環境条件，作業条件等に大きく左右され，その後これらの良好な条件と適切な管理作業が相まって，良いほた付結果が得られるのではないかと考える。

Ⅲ. ま と め

今回のアンケート調査結果からは，鹿川タイプの害菌被害をさけるための栽培管理法の一つ一つについて，決定的なこととは言えないのであるが，さしあたり次のことが，この害菌の発生を防ぐ要因になるのではないかと考える。

1. 種菌が害菌に汚染されていないこと。
2. 伏込み適地の選定，とくに夏期の通風と乾燥に配慮すること。
3. 原木の伐採，玉切り，接種，伏込みに至るまでの適期作業をおこなうこと。
4. 伏込み地の適切な管理作業を，その年の気象条件に合わせて行なうこと。